

令和7年9月立山町議会定例会一般質問・質疑通告概要 (令和7年9月11日)

※この資料は、議員から提出された通告書のまま作成しています。

○ 一般質問・質疑順番

1番	佐藤	康弘	議員
2番	坂井	立朗	議員
3番	松倉	勝実	議員
4番	堀田	努	議員
5番	後藤	智文	議員
6番	澤井	峰子	議員
7番	平井	久秋	議員
8番	髪口	清隆	議員

<一般質問>

1番 佐藤 康弘 議員

1 来年1月に行われる、町長選挙について

早、町長選挙まで半年を切りました。今日まで、行財政改革、教育環境の充実、企業誘致などに着実に成果を上げられています。

特に教育環境、企業誘致は突出した感があります。これらは、日ごろからのたゆみない努力の成果だと思います。

現在、富山県町村会長、全国観光地所在町村協議会副会長、全国中山間地域振興対策協議会北陸支部協議会会長といった、大変重要な役職を担っておられます。これらを踏まえて町に山積する課題解決に、引き続き取り組んでほしいと強く願うところです。町長の思いを伺います。

2 地球温暖化対策について

(1) 今後の取り組みは

地球温暖化がもたらす異常気象は、近年半端なものではありません。特に記録的な猛暑、豪雨、台風の巨大化、それらによる健康被害や経済被害が激甚化、頻発化する傾向にあります。人間の経済活動や日常生活から排出される「温室効果ガス」が原因といわれています。町では地球温暖化対策として、「立山町ゼロカーボン計画」を策定し、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを掲げて、いろいろ取り組んでいる事は知っており、大切な事と思います。財源さえ整え

ば、この先取り組みたいことがあるのか、町の考えを伺う。

(2) 町民の取り組みについて

町民の方々にも、地球温暖化について認識を高めてもらい、小さな事でも一人ひとりが出来る事に取り組んでほしいと、強く呼びかけていく事が必要だと思う。町の考えを伺います。

3 富山地方鉄道[立山線]の存続について

(1) 立山線が担う観光路線としての重要性を、どのように捉えているのか。

立山線は、立山黒部アルペンルートへ向かう多くの観光客を輸送しており、立山黒部貫光(株)や立山山麓で宿泊業を営む事業者にとって、重要な路線である。世界有数の山岳観光地を有する立山町としては、観光路線としての切り口からも、その存続の可能性を考えるべきだと思うが町の見解を伺う。

(2) 観光路線としての安全性確保について

立山線の岩峠寺駅から立山駅までは、山間部を走ることになり、大雨が降った場合に落石や倒木などで運休となることがある。

これでは、多くの観光客を輸送する路線として安全面に不安が残る。岩峠寺駅から立山駅区間の安全対策について、乗客である立山町民や町を訪れた観光客の安全確保のために町としてどのような対応をするのか。

(3) 立山線・不二越上滝線分科会の進捗状況

令和6年度から「富山地方鉄道鉄道線あり方検討会」が開催されているが、この検討会内に設置された「立山線・不二越上滝線分科会」が、令和7年度から開催されている。

路線ごとに検討が始められ、立山線存続に向けた具体的な動きが加速することを期待しているが、この分科会の進捗状況を伺う。

4 宿泊税の導入検討について

立山駅周辺を含む、国立公園等の環境整備の財源確保のため、宿泊税の導入について検討する「外部検討委員会」の開催に要する経費を補正予算計上しているが、導入となれば富山県では初めてではないか。また、町内の全宿泊施設が対象になるのか、伺います。

2番 坂井立朗 議員

1 地鉄立山線存続を目指す一助に

地鉄立山線の存続を願って地域において活動する団体がある。求められれば行政として手を携えて協力をする考えはあるか。

2 読書の効能について

文部科学省は今年度の全国学力テストのアンケート調査において、読書が好きな児童ほど成績が良いとの分析結果を公表した。このアンケートの分析をどの様に理解し、今後に生かしてゆくのか。

3 教職員の負担軽減に向けて

「近年、本来家庭で対応すべき相談、要望が、学校現場に寄せられ業務に支障が生じている」といった事例が多くあると聞く。町としてどの様な対応をしているのか。毅然とした対応が必要と思うが。

3番 松 倉 勝 実 議員

1 農業について

少子高齢化の中、農作業者の高齢化と後継者の担い手が問題となっている。自立出来る農業には、多角経営、低コスト高収入が必要である。そこで、2点伺う。

- (1) 町として耕作放棄地の対応をどのように考えているかを問う。
- (2) 諸課題の解決策として乾田直播について提案する。ご存知の通りこの方式は、水田作業（耕起、荒しろ、代掻き、田植え、水管理）不要である。
 - ① 成功事例の鳥取県の資料の収集を請う。
 - ② 乾田直播導入への検討チームの立ち上げを請う。

2 定例議会臨時議会における議案関係書類について

- (1) 本町における議案書の配布は何日前を原則としているのか伺う。
- (2) 議員が十分に議案を精査できると考えているか伺う。
- (3) 要望として、かくあるべき事前配布を請う。
 - ① 3月議会議案書類は、少なくとも3月度議会の5日前には、議員に配布を請う。
 - ② 6、9、12月議会議案書類は、3日前に議員に配布を請う。
 - ③ 臨時議会の会議議案書類は、2日前に議員配布を請う。

3 学校図書について

町は、読解力向上に取り組んでいる。方向性は違うが、学校図書の充実は、子供の成長に欠かせない。ハード面ソフト面で2点伺う。

- (1) 小中学校図書の予算の増額を請う。
- (2) 立山町の図書館だけでなく、近隣、富山市、上市町、舟橋村、滑川市図書館との交流連携

を請う。

4番 堀田 努 議員

1 街なか有害鳥獣対策について

今年の夏前に猿が一匹もしくは二匹が、街なかの住宅や庭に出没した。人への危害の報告はなかったが、畑の一部ではあるが、猿による被害ではないかという事例があった。

- (1) 秋以降現在身を潜めている猿が再び街なかに現れると想定されるが、出没した場合の新たな対策を問う。
- (2) 夏前の出没の時に、町職員は早朝から夜まで対処に奔走されていたが、町職員のみでの対応で、本当に体力的にも精神的にも大変に見受けられた。警察や県、その他の団体にも協力を求められないか問う。
- (3) 今年はドングリが凶作とのこと。熊のみならずイノシシも里、街なかに出没することが大いに想定される。街なかで出没した場合、条件付きで猟銃の使用が可能になる改正鳥獣保護管理法が成立した。迅速な駆除が期待できるが、スムーズに対処できるためのガイドライン、マニュアルはあるのかを問う。

2 認知症対策について

認知症人口は全国で 443 万人また、認知症の手前の症状の MCI（軽度認知症障害）の人は 550 万人。合計で約 1,000 万人。約 1 割の人が患っている。立山町の 65 才以上の人口は令和 2 年度のデータで 8,200 人。同じ割合だとすると 800 人以上の人が認知症を患っていることになる。

- (1) MCI（軽度認知症障害）は原因によっては治療、対策を行うことで認知症への進行を遅らせる、認知機能の低下を遅らせることができると聞けるが、これらの認知症予防対策の立山町での現状を問う。
- (2) 地域包括支援センターからの予防対策の周知方法等及び相談件数についての状況を伺う。
- (3) 家族が認知症になった場合、地域包括支援センター以外の相談先は他にもあるのかを伺う。
- (4) 認知症を患った人のために、認知症カフェ（オレンジカフェ）や「日本認知症本人ワーキンググループ」があると聞けるが、我が町での現在の利用状況、周知の状況を伺う。

3 雄山高校の存続について

県教委の今後の方向性によると、県内に 1 学年 480 人の大規模校を 1 校、160～280 人規模の中規模校を県東部に 9 校、120 人以下の小規模校を県東部に 2 校設置するとしている。雄山高校は地元からの要望で設立された、地元密着の県立高校である。7 月の立山まつりでも雄山高校生が大活躍だった。再編の嵐に直面している今、観光まちづくり学科などの学級を要望して、小規模校で継

続するか、統合して中規模校として存続をめざすか。いずれにしろ現在の校舎を利用するのが大前提と思う。もちろん存続に向けて同窓会、OB も一丸となって最大の注力が必須である。どのように県に要望していくか、あらためて伺う。

4 立山町都市計画マスタープランについて

五百石地区の市街地を整備し、安全で快適に暮らせる、また、楽しさと賑わいあふれる市街地をつくる「立山町都市計画マスタープラン」を策定された。

- (1) 6月の一般質問の項目を再度問うが、都市再生整備事業で民間連携可能性調査の進捗について問う。
- (2) 現時点でのプランの全体像で、具体的なものがあるかを問う。

5番 後 藤 智 文 議員

1 富山地鉄 立山線存続について

立山町長として、立山線存続のために努力されていることに敬意を表する。富山地方鉄道は鉄道として赤字でも地鉄全体では黒字である。そのことを踏まえ、支援がなければ来秋廃線なんて乱暴な議論である。

- (1) 立山線の意義は、町民の生活路線、多くの観光客の観光路線として多大な貢献をしている。改めて町長として今後の決意を伺う。
- (2) 富山地鉄として、今年12月末までに支援がはっきりしないと、来年11月末で廃線にするとしている。町の計画として実態調査が行われているが、早急にまとめて支援策を考えなければならないのではないか見解を伺う。
- (3) 立山黒部貫光などが県に対して存続を要望した。立山町として、町民を巻き込んだ対策を練る必要があるのではないか見解を伺う。
- (4) 支援策として、みなし上下分離方式になったとして相当な支援金を出さなければならなくなる。町民負担が増えないためにも国、県に強力に働きかける必要性があると思うが見解を伺う。
- (5) 乗客を増やすための支援策として、往復ワンコイン、半額で乗れる、各駅を中心としたフェスティバルなどの企画は考えられないか見解を伺う。

2 県立高校再編について

県において「新時代とやまハイスクール構想」が示され、2038年度までに現在の34校から20校にするというもので町長の見解を伺う。

- (1) 「総合選択制」として1学年480人の大規模校1校をつくることを決めたが、そもそも生

徒数が減るのにこんな大規模な学校が必要なのかどうか。むしろ少人数学級を実現することこそ必要なのではないか見解を伺う。

(2) 普通科の内容を7つのタイプに分けることもどうか。職業科ならともかく、普通科はまだ将来の進路が決まらない子が多く進学するものだ。高校の数も少なく、いきたい学校は遠くしかないなど通学負担が強いられる。子どもの学ぶ権利はどうなるのか見解を伺う。

(3) 今年度の町重点事業要望書の中に新規として、雄山高校の存続と魅力向上の施策の推進が取り上げられた。「新時代とやまハイスクール構想」の小規模校として存続を挙げられているが、県で4校と少ない。どうすれば存続できるのか町民みんなで考える必要があるのではないか見解を伺う。

3 ごみ有料化について

富山地区広域圏のごみの多くを占める富山市の環境審議会でごみの有料化が決められた。立山町はどうするのか。立山町はこれまで分別を進め、町民の多くがごみ減量に協力してきた。それに比べ富山市は、ごみの分別が少なく、なんでも燃やしていた。そもそもごみ処理は町民サービスの一環で税金で賄っている。だから有料にすると税金の二重取りということになる。富山地区広域圏の一員ということで、まさか立山町もごみ有料化に舵を切ることはないと思うが見解を伺う。

4 アカリエと前沢中央公園について

子育て支援施設アカリエは、多くの子どもたちでにぎわっている。構想にあったかと思われるが、前沢中央公園との連携がもっと素敵な子供たちの空間になるのではないか。そのためにもアカリエと前沢中央公園をつなぐ遊歩道を作るべきではないか見解を伺う。

5 緊急銃猟制度について

(1) ハンターが現場についてから5つの手順が設けられて、猟銃の発砲まで時間がかかるという。県は訓練を行ったが、町としても独自の訓練が必要なのではないか見解を伺う。

(2) 街中で猟銃を発砲する場合、市町村の判断で可能なのだが、ハンターは非常に危険な作業を担うわけで、最終判断はハンターに任せるべきではないか。もちろんその場合でも、責任は町がとることになると思うが見解を伺う。

6 補聴器購入助成について

加齢性難聴者は、人と話すことが嫌になり、対話がなくなることから認知症になるケースが多いと聞く。1年前の同様の質問に対して回答は「研究したい」ということだった。メガネなどと比べ補聴器は高く、年金受給者にはなかなか手を出しにくい状況にある。助成をしている自治体も多く

なっているが、我が町でも助成できないか見解を伺う。

7 不登校対策について

「適応指導教室」の名称を令和7年度から「教育支援センター「フレンドリー」に改め、開設時間を8時30分から16時に拡充されて運営されている。これまでの歩みと成果はどうだったか。また、2学期が始まり、不登校や自殺者が出ない対策を打ち出されていると思うが見解を伺う。

8 行政視察から

(1) 防災対応について

補正予算に防災グッズを購入されようとしているが、これらの管理はどうなるのか。視察した東松島市は、大変大きな備蓄倉庫があり、きちんと管理点検されていた。細かいこと言えば防災リュックサックの中身を半年ごとに詰め替えるなど。防災用品の管理について見解を伺う。

(2) 廃校利用について

今、町の廃校でもいろいろなことが行われていて、残りは旧新瀬戸小学校のみである。山形県の高畠町の高畠熱中小学校を視察し、地域の人とともに様々な取り組みがなされていて、これまでの発想では考えられない廃校利用だった。新しい発想で旧新瀬戸小学校の今後を考えるべきと思うが見解を伺う。

6番 澤井峰子 議員

1 防災対策強化について

(1) 今定例会で受援計画策定にむけた委託料を示されている。実際、災害を経験した自治体が被災後、各援助団体等を受入れる場所や会議をする場所の確保に苦労された話をよく伺う。

① 対策本部を設置する場所に加えて、援助団体等との連携や現状把握、情報共有に必要な場所、さらには、町外ボランティア受け入れの場所等も踏まえた見える計画をと考えるが町の見解を伺う。

② 災害業務に追われる職員、特に女性職員が休息できる場所等、今後、防災センターや元気ステーションの活用をどのように考えるのか、町の見解を伺う。

(2) 令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、災害対策基本法等の一部が改正となった。国による災害対応の強化に加え、被災者支援の充実として初めて「福祉サービスの提供」といった視点が明記された。改正に対しての町の対策を伺う。

① 高齢者等の要配慮者、在宅避難者など多様な支援ニーズへの対策を伺う。

② 避難所でのDXの活用はどのように進めていくかを伺う。(避難者情報の把握や避難者への情報提供等)

- ③ 国は、災害 NP0・ボランティア団体等の情報をデータベース化し、自治体と共有することとで、発災時にはきめ細かな、質の高い被災者支援の実施を想定している。平時からの関係団体との連携が重要と思うが町としてどのように取り組むのかを伺う。

2 子育て支援について。

- (1) 行政視察で訪れた岡山県高梁市での子育て支援の1つに、紙おむつ支援を実施している。仕事と子育てを両立するパパママを応援する事業とのことで、わが町でも是非取り組んで頂きたいと考える。

この取り組みは、保育園等に通う0歳児から2歳児クラスの園児と通園していない未就園児の1歳児月額2,000円、2歳児月額1,000円の補助金を実施しており、仕事と子育てを両立するパパママを応援するだけでなく、保育士の負担軽減にもつながる事業であると考えているが、町の見解を伺う。

- (2) 公共施設や町内事業所に搾乳できる環境を整えることは重要な子育て支援であると考えている。近隣では舟橋村の舟橋会館には搾乳ボックスが設置されている。町として、広く搾乳マークの周知を図り、安心して搾乳ができる環境を整えるべきと考えるが町の対策を伺う。
- (3) 今年度より高校生のタブレットが自己負担となったことから、町として令和6年度に中学3年生へ2万円の給付を実施頂いた。たくさんの親御さんから喜びの声を頂いた。引続き、令和7年度の中学3年生への給付を実施頂けないかと思うが、町の見解を伺う。

3 小中学校の運動会・体育大会育について

昨今、温暖化による夏の暑さが尋常ではない。熱中症警戒アラート級の暑さが続くなか、夏休みが開けてグラウンドで体育大会の練習をする生徒の姿に、保護者などから心配の声を頂いている。

- (1) 教職員が一番注意を払い、万全の体制で対策をとられていると思うが、改めて、小中学校の熱中症対策を伺う。
- (2) 様々な学校行事がある中で、現在の運動会・体育大会の日程であると思うが、「何かあってからは遅い」ため、今後、開催日時の検討をとお考えるが町の見解を伺う。

4 5歳児健診について

国は、5歳児健診の重要性を示し、こどもの特性を早期に発見し、特性に応じた適切な支援を行うことで、幼児の健康保持及び増進を図ることとしている。

3歳児の健診以降、就学前健診まで、精神、言語、社会性の発達状態を確認する機会がないのが現状である。町として、是非5歳児健診を実施頂き、適切な支援へと繋げて頂きたいと考える。町の見解を伺う。

7番 平 井 久 秋 議員

1 消防署の対応

(1) 現在の体制と課題について

- ① 現在の署員数と班体制を伺う。
- ② 昨年と比較し、救急出動の件数を伺う。
- ③ 以前の質問で、不足時に非番の署員に応援を頼むとのことだったが、根本的に署員不足ではないか。現状での署員への負担軽減に対し、どのような対策をしているのか。

(2) 行方不明者捜索に警察犬の出動を

過去に何度も行方不明者の捜索に出ているが、全国的に見ても11年連続、高齢の認知症の方が増加している。捜索するうえで、手掛かりが少ない中、警察犬が出動することで、すぐに発見された報道がある。消防署から早期の警察犬の協力要請はできないのか。

2 マンホールトイレの設置について

町では災害時の避難場所のトイレ不足に備え、トイレトレーラーを装備した。ただ、全町に及ぶ災害が発生した場合、1台ではとても足りない。そこでマンホールトイレが有効と思われる。

- (1) 現在、マンホールトイレはどのような場所に何か所あるのか伺う。現段階で構想されている施設の概要を伺う。
- (2) 設置費用は一基当たりどのくらいか、また維持費はかかるのか。
- (3) 今後、避難場所に指定されているところに設置の予定はないのか。

3 吉峰新コテージについて

オープンから2度目の夏を迎えた吉峰の新コテージだが、現在までの利用状況を伺う。また今年度の目標とする数値があったと思うが、その達成状況を伺う。

4 避雷針の設置について

局所的な豪雨に伴う雷は、大変恐ろしい。いつどこに来るかわからない雷に対し設置されるのが避雷針だが、現在、町のどのような施設に設置されているのか。特に日常、人がいる保育所、小中学校の他に、公園など敷地の広い逃げ場のないところに設置の必要性を感じるが、いかがか。

5 緊急銃猟制度について

9月1日からこの制度が始まった。これまでにない有害鳥獣への対応で、現場での混乱が予想される。町猟友会の高齢化が進んでいる中で、町では今後どのような対応になっていくのか伺う。

8番 髪 口 清 隆 議員

1 利田地区の開発について

令和3年に利田曾我交差点周辺を、準工業地域とする用途地域の設定への話題が上がって4年が経過した。

これまでも何度か用途地域の設定について質問しているが、あまり進展は見られない様子で、今でも町内外からは、あることないことさまざまな憶測が飛び交い、地元住民には困惑している方もいる。

地元はもちろんのこと、周辺市町村にもしっかりと周知するためにも、現状と今後の展望を伺う。

2 介護予防について

産業厚生常任委員会の視察で、「日本一転ばない町」プロジェクトを行っている、香川県宇多津町へ伺った。

新型コロナワクチン予防接種時に、高齢者から、骨折による入院を理由に予約キャンセルの連絡が多く入ったことから、高齢者の骨折が多いことを実感し、民間事業者と地域活性化企業人の協定を結び始まった事業であるとのこと。バリアフリー化や手すり設置などのハード面ではなく、多種多様なデータを収集・分析・活用し、転倒・骨折予防を行うといったソフト面でのプロジェクトのこと。

違う角度からの予防対策で、非常に感心し共感できて興味深いプロジェクトであった。今後も否が応でも高齢化が進んでいく。健康寿命延伸が医療費・介護費削減に繋がり、宇多津町では町長が主導して行っている。

立山町でもこの様な取り組みができないか提案したいがどうか。

3 学校のプールについて

利田小学校では今年度から、高野・釜ヶ淵・立山小学校の3校と同じく、スクールバスを使い、常願寺ハイツのプールで水泳の授業をしている。

施設の維持管理を考慮しての判断だろうし、近年の夏の猛暑を思えば、気温や雨の心配も無く、室内プールで授業が行えるので、安心できる。

- (1) 夏休み期間も常願寺ハイツのプールの利用はできないか。
- (2) 今夏、利田小学校のプールは水が入ったままになっており、汚れていて見た目も悪く、衛生的にも決していいとは言えない状況になっていた。今後未使用になったプールをどの様にしていくのかを伺う。